

山行報告書

報告書作成

2013年7月4日

山名 [山域]	経ヶ峰 [布引山地]		ステップアップ山行3'
登山期間	2013/6/29(土)~30日(日)	山行形態	1泊2日(避難小屋泊)
参加人数	4人		

行動記録 ==:車 --:歩き ++:公共交通機関 TS:テントサイトor宿泊施設 (到着時刻、出発時刻)

【1日目】

刈谷ハイウェイオアシス(7:30)==1:00==芸濃IC(8:30)==0:01==セブンイレブン芸濃インター前店(831,840)==0:20==
 草生天神ルート登山口PKG(900,930)--0:20-山出道合流点(9:50)--1:10--経ヶ峰(1100,1155)--0:05--避難小屋[TS1](12:00)

【2日目】

起床(4:00)--2:50--避難小屋[TS1](6:50)--0:05--経ヶ峰(6:55)--0:40--大洞ノ峰(7:35,50)--0:20--経ヶ峰(8:10)--0:25--パノラマ
 コース分岐点(8:35)--0:55--草生天神ルート登山口PKG(930,950)==0:10==あのう温泉(1000,1110)==0:10==蕎麦「平尾屋」



- アプローチメモ**
- ・駐車場:10台程度
 - ・経ヶ峰避難小屋:
20人程度収容
水場有
トイレ有
テント泊可能
 - ・コンビニ:
セブンイレブン
芸濃インター前店
059-256-6780
 - ・温泉:
あのう温泉(安濃
交流館)
059-268-5678
 - ・食事
蕎麦「平尾屋」
059-230-3788

日誌

梅雨時で心配されていた天気も良い。今回は歩荷山行も目的の一つなので全員が20キロ近いザックを背負って登山口の駐車場から沢沿いに歩き始めるコンクリートで舗装された道から土の歩きやすい道に変わる。沢が近いこともあってか沢蟹をよく見かける。登山道の幅は広く大人が二人並んで歩けるくらいの所が多いです。夏山によくいる小さな羽虫やこの時期の鈴鹿近辺の山によくいるといわれたヒルもおらず快適なあるきだし。1時間半ほどの歩行で経ヶ峰山頂に到着。途中で何人もの登山者にすれ違ったが山頂もにぎやかな様子。山頂の天気は良く晴れていて、遠くの方はかすんでいるものの360度遮るものない好展望でこれまで登ってきた道を振り返ればその先に伊勢湾が眺められ鈴鹿山脈や青山高原なども近くに見えた。昼食を取りこの日の宿泊場所である経ヶ峰避難小屋に移動。山頂からすぐ近く5分ほどで到着。

扉一枚で区切られた仮眠所という個室を使わせてもらう。この小屋は地元ボランティアの方達が管理され、きれいに掃除がされていて非常用のガスや銀マットなどの道具が常備されているほかソーラー発電で自家発電しており夜間は小屋とトイレで明かりが使える。水場はありますが地元の方の話では煮沸しなければ飲用できないようです。その後はパッキングの研修やテントの組み立てを行う。そして早めの宴会、夕食となりました。下ごしらえをsさんと手伝いながら料理の仕方も少し覚えられました。おいしい天ぷらを振舞ってくださったHさん有難うございます。日没前に再び経ヶ峰の山頂に向う。夕日に染まった山頂は昼ごろの時とはまた違った雰囲気できれい。西の山地に沈んでいく夕日をゆっくり眺めながら山頂での時間を過ごし避難小屋に戻る。

小屋に戻る道中子供の声が聞こえ、自分たちが小屋に着くとほぼ同時くらいに子供連れの数名が到着して今晚泊まれるとのことで大人数の小屋泊となる。翌日は4時起床。気温は15度ほど。静かに身支度を整え日の出を見に山頂に向かう。小屋を出た時からガスがかかり、山頂でも時々風に流されガスの切れ間から青空が見えるものの日の出の時間が来てもガスが取れず、日の出は見れませんでした。一度小屋に戻り準備を済ませ大洞ノ峰へ向かう。読図をしながら歩いていきピストンで下山開始。途中から地元の人にお勧めされたパノラマコースを進む。なんでも山頂よりも眺めがよいのだとか。分岐を過ぎてしばらくして森が開けてくる。しかしガスが取れず何も見えない。ベンチが整備され休憩もできる。天気が良ければきっと良い眺めなのだろう。Nさんいわく下山時に沢の水音が聞こえたあたりが危ないとのこと。沢があるということは急な谷があることが多い地形で、あと少しで終わりだからという気の緩みと疲れが最も溜まっている体の状態が重なってよく事故が起きるとのこと。気を引き締めながら駐車場まで尾根を下っていく。整理運動や片付けを済ませあのう温泉へ向かう。ちょうど営業開始時間と到着時間が重なり一番風呂で汗を流し、蕎麦屋「平尾屋」で昼食を取り途中見かけた農産物直売所でお土産お買い解散場所の刈谷ハイウェイオアシスへ向う。

参加者名	
------	--